



福岡アジア美術館
Fukuoka Asian Art Museum

日本・フィリピン国交正常化 60 周年記念 タイム・トラベル—美術で知るフィリピン

2016年8月25日(木)～12月25日(日)
アジアギャラリー

太平洋戦争において、膨大な数の人々が犠牲になった最激戦地のひとつ、それがフィリピンです。世界一周をめざしたマゼランが生涯を終えた島、あるいはアジア最大のカトリック信者を抱える国、それもフィリピンです。私たちはこの国について、どれだけのことを知っているのでしょうか。

日本とフィリピンの交流は、歴史を紐解くと 16 世紀の中頃からはじまります。豊臣秀吉のときには、マニラに日本人町もつくられました。江戸時代の鎖国令によってその交流は一時途絶えますが、20 世紀になると多くの日本人労働者がフィリピンに移り住みます。現在では、約 1 万 8 千人の日本人がフィリピンに住み、日本で暮らすフィリピン人も 20 万人に達しています。これは中国、韓国に次いで 3 番目の多さです。

今年は、日本・フィリピン国交正常化 60 周年にあたります。先の大戦は両国にとって最大の悲劇でしたが、戦前・戦後にわたり両国は官民さまざまなレベルでの交流を育んできました。どんなことがあっても対話のチャンネルを開いておくこと、相手のことを知りたいと思うこと。友好的な関係を築くには、そのことが重要になるはずです。

本展では、アジア美術館の所蔵品をとおして、フィリピンの知られざる歴史や文化、その中でたくましく生きる民衆たちの姿を、まるでタイム・トラベルするかのように見ていきます。準備はいいですか。それでは出発進行～！



ヌネルシオ・アルヴァラード《マスカラ祭のクイーン》1998 年



(左から) ①フェルナンド・アモルソロ《廃墟のイントラムロス》1945 年 ②石川真生《フィリピン人ダンサー フィリピン、オロンガポ -1》1988-89 年 ③ジョン・フランク・サバド《仲介者》2001 年